

一般

段級

廿日、日光山の麓に泊る。あるじの云けるやう  
 我名を仏五左衛門と云。万正直をと旨とする  
 故に、人かくは申侍るまゝ。一夜の草の枕も

蘭の細道  
 三十四、日光山の麓に泊まった。この旅籠の主人は、「世間の人ばかりのこ  
 とを仏の五左衛門と言った。わしが万正直を旨としてから、人はう  
 言ったんへえ。だから安心して今夜一晩」

